会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和3年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」  （３）職業実践専門課程等の充実に向けた取組の推進①社会的評価の一層の向上のための共通的基盤整備の推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第5回共通基盤整備事業実施委員会 |
| 開催日時 | 令和4年1月17日（月）　13時00分～15時00分 |
| 場所 | AP品川アネックス（オンライン会議併用） |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾  委　　　員：五十部　昌克、岡村　慎一  （オンライン参加）  松田　義弘、増子　卓矢、谷　昌一、川越　浩、山根　大助  計8名  請負業者：八木　信幸、飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　計2名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計10名 |
| 議題等 | 1. 『4機関調査集計まとめ（共通項目と特長）、認証モデル』   ・計画では5機関の調査を予定していたが、リハビリテーション教育評価機構は調整が取れなかったため4機関でのまとめとなる。調査結果で、共通項目の明確化、各機関の特徴を定義、それを踏まえた上で、スタンダード認証モデルをまとめる予定。（五十部）  (1) スタンダード認証モデル作成のための各認証機関の調査結果のまとめ（共通項、差分項目の整理など）について。資料を元に説明。（八木）  ・資料1では、第三者評価を実施している機関へのヒアリング調査結果をまとめている。横軸に機関項目、縦軸に審査活動の概要についての項目があり、審査の流れ、審査料金体系など各項目の違いを見られるようになっている。なお、TCE財団は現在評価認証をしていないため、厚生労働省のガイドライン適合事業者認定の制度についての説明と理解していただきたい。  ・確認・修正が必要と考えている部分はハイライトにしている。今後資料などから確認し修正する予定。  ・審査結果の形式（様式）について、QAPHEは文科省の要望に準拠している。今後各認証機関の様式がQAPHEの様式に近い形で評価結果が出されれば、　評価のスタンダードとして示すことができるかと考えている。  (2) スタンダード認証モデルについてのまとめの方針。資料を元に説明。（八木）  ・資料2については、各機関の第三者評価のスタンダード認証モデルについての叩き台としてまとめの方針をまとめた。  ・まとめの方針は、第三者評価機関の取組の専門学校の第三者評価として、備えなければならない「共通項」と「専門学校の第三者評価として重視する点」としている。  【意見等】  ・それぞれの学校に応じた特徴が出せるか。（高岡）  →資料1がそれにあたると考えるがどうか。（五十部）  ・特になし。次の段階で質問したいことが出てくると考えている。（松田）  ・まとめられたヒアリング調査の結果が各認証機関の意図と合っているか、場合によっては認証機関の補足が必要になるのではないかと感じた。（谷）  ・谷先生と同様、報告書として全て公開するのであれば、認証機関とのすり合わせが重要だと感じる。金額面ではまとめ方針で触れられていないので、補足が必要と考える。説明無しでの金額表示は不利に捉えられる可能性が高い。金額の差に納得がいく説明があれば良いが。（山根）  →それぞれ公開されている料金なので、並べられると比較にはなるが、調べれば分かることではある。（五十部）  →料金については、初回費用、維持管理費用で分けており、それぞれで比較すると大差は無いと見ている。ガイドライン認定のみ全体的に安価な印象にはなる。委員の皆さんからいただいた意見を元に調査結果をまとめ、各認証機関に不都合がないか内容確認を依頼する予定。（八木）  →趣旨を説明した上でのヒアリングなので、調査結果を確認いただき了承を得た上での公開できれば良いと考える。（増子）  →認証機関に了承を得てから外部公表するのが筋。金額も項目が統一されており、公開もされている事実の情報なので、調査結果に記載するのは致し方ないと考える。（川越）  ・認証機関に確認いただくときは、個々の情報か、4機関並べたものか。4機関並べると「他機関と表現方法を同様に」という要望が出て、各機関寄ってきてしまうのではないか。（高岡）  ・（4）の項目「第三者評価機関における第三者評価の特色」で各認証機関の考え方が色濃く表れると思うので、確認が重要だと考えている。教育の質については各認証機関の違いが表れているので、さらに丁寧に確認が必要と考えている。（五十部）  (3)学内監査・推進者育成プログラム調査について。資料を元に説明。（八木）  →審査員の要請として共通のものを作るのは難しい。この件については、次年度について皆様の意見を伺いながら作っていきたい。（五十部）  →内部質保証人材育成プログラムは、TCE財団でやっている研修をベースに今後プログラムを作っていきたい。このプログラムには評価研究機構とJAMOTECとTCE財団が情報共有して行っている。（八木）   1. その他   ・成果報告については、対面ではなくビデオによる配信で実施する。  ・本年度の成果物に関しては、2月第3週までに原稿を作成し、版下レベル原稿は、次回実施委員会にて確定する。  ・原稿は出来たものからSlackで確認する。  ・第5回実施委員会…2月28日（月）13時～15時＠オンライン開催 |
| 配布資料 | ・第５回共通基盤整備\_実施委員会議題案\_20220117  ・01 第三者評価を実施している機関へのヒアリング調査結果\_20211213  ・02 第三者評価のスタンダード認証モデルについて  ・03 学内監査・推進者育成プログラム作成のためのヒアリング調査結果\_20220116 |

以上